

カルメル

霊性センターニュース



2017年4月

330号

目次

心の泉	1
カルメル会の企画案内	19
東京	22
京都	26
名古屋	30
北陸	31
諸所の企画案内	33
年間購読(郵送)のご案内	46
編集後記	47

心の泉





第三卷

第五章 神の愛の感嘆すべき効果

1 子

《みじめな私を顧みてくださった私の主イエス・キリストのおん父、天のおん父を賛美します。「ああ、あわれみの父よ、慰めの神よ」(二コリント1・3)、慰めを受けるに足りないこの私に、ときどき慰めをくださるあなたに感謝いたします。あなたのおん独り子と慰め主なる聖霊と共に、あなたを世々賛美し、喜びます。聖なる愛をお与えになる主なる神よ、あなたが私の心に下る時、私の内なるものは、ことごとく喜び勇みます。あなたは、私の光栄、私の心の歓喜、私の希望、私の苦しみの、のがれ場です(詩編3・4、119・111、59・17参照)。

しかし私の愛は弱く、徳は不完全で、あなたに強められ、慰められる必要があります。しばしば私を訪れ、聖なる教えを与え、私から邪欲を遠ざけ、よこしまな執着を治してください。私が健全な心を持ち、清められ、あなたを愛する者となり、不幸に強く、正しい道をあくまで歩み続ける者となるためです。》

2 主

《愛は大いなることである。それはあらゆる善のなかでもっとも偉大なものであり、これだけがすべての重荷を軽くし、異なるものをすべて同じ心で耐え忍ばせる。愛する人にとってはどんな重荷も軽く、苦いものも味のよい甘美なものとなるからである。イエスへの崇高な愛は大いなる業をおこなわせ、ますます完全なものを望ませる。愛は高きにあこがれ、低いものに縛られようとしない。心を深く省みることをさまたげるすべてをいとい、地上的な安楽によって束縛されたり、不都合なことに屈したりすることのないように、愛は自由であり、世間の束縛から脱したものでありたい。……》



呼ばれています

“聖なるもの” になるように

主はよみがえられた

アレルヤ ！

「わたしは復活であり、いのちである。

わたしを信じるものは、たとえ死んでも生きる。」ヨハネ 11・25

「この地上でキリストと接した病人は、主の内に秘められた力によって健康を、死人は生命を取り戻しました。主は確かに常に生きておられます。素晴らしい秘跡において聖櫃のうちに生きておられ、またわたしたちの心の内にも生きておられます。主ご自身が言われました。《わたしたちはその人のところに行って、その人と一緒に住むであろう。》」ヨハネ 14-23. *

イエスはわたしたちを呼んでおられます。イエスという名の意味は「救う神」「わたしとともにおられる神」です。わたしたち一人ひとりをつか知ることになる永遠の名によって呼んでおられるのです。**

復活した主との出会いは、わたしたちを造り変え、信じるための新たな力とゆるぎない土台を与えます。日々の生活でわたしたちは、蜘蛛の巣にからまれているような「時」を過ごすかもしれません。でも“聖なるもの” “になるように呼んでくださる方の “いのち” によって浄められ、変えられてゆくことを信じ、希望して歩み続きましょう。

伊 従 信 子 (いより のぶこ)

ノートルダム・ド・ヴィ

* 『神はわたしのうちに わたしは神のうちに』伊従信子著、聖母の騎士社

** 『神と親しく生きる いのりの道』ドグレール、ギシャール著 聖母文庫

神さまのことが書いてなければ おもしろくない

くのり
九里 彰

小さな子供は時々、大人がどきっとするような言葉を平気で口にする。ある日、幼稚園からもどってきた某神父の話。お母さんと共に図書室の絵本を借りに来た男の子が、「神さまのことが書いてなければ、おもしろくない」と言っていたというのである。

驚くと共に、実に考えさせられる言葉ではないだろうか。一般的にはこの逆、「神さまのことが書いてあれば、おもしろくない」である。神さまのことが書いてない、つまり堅苦しくない、気楽に読める本こそ皆が探し求めているものだからである。

だが、それはしばしば、本質的なこと、一番大切なことをまったく見ないようにし、その場限りの慰めを求めていることになっていないだろうか。ドイツに留学していた時、電車の中や保養地の安楽椅子の中で、クロスワードパズルに熱中している人々をよく見た。時間つぶしにやっているのだろうが、まわりの景色を見ず、人々との関わりを断ち、自分の世界に没頭している彼らの姿に奇異な思いを抱いた。パスカルは、『パンセ』の中で、「気晴らし」についてこう述べている。

人間は、死、惨めさ、無知を救治することができなかった。それで、幸福になるために、これについて考えないように工夫した。(275)

人生の根本問題は、神ぬきには考えられない。私たちは何故この世に生まれ、何のために生きているのか、いくら人間の頭で考えても、答えは出てこないだろう。それらは、人間の地平を超えた永遠の神によってのみ解かれる存在の神秘だからである。

森羅万象、生きとし生けるもの、すべての物が神によって創られ、育まれ、支えられているとすれば、神さまのことを思い、絶えず感謝と賛美をささげながら、一瞬一瞬、一日一日を過ごすことこそ、最高の幸せであるとは言えないだろうか。神さまのことが書いてない本は、表面的な面白さを追い求めるのに対し、神さまのことが書いてある本は、本当の面白さ、生きる喜びと楽しさ、幸せを伝えてくれるのではないだろうか。

十字架の聖ヨハネ こぼれ話 (112)

ホセ・ヴィセンテ・ロドリゲス o.c.d.

「聖マルティン」

聖人たちの生涯は、ヨハネ修士を魅了していたように思われます。彼は修室に良く知られた『フロス・サンクトールム（聖人たちの花）』を持っていました。特にツールの聖マルティンに信心がありました。ある時、大変な苦境に陥った彼は、聖マルティンに助けを求め、その危機をとてとても上手に切り抜けました。

グラナダの女子カルメル会では、1586年、マドリッドの創立に出かけて行ったイエスのアンナ院長の後継者を選ばねばなりません。姉妹達は、当時、マラガの院長であったキリストのマリアを選びました。ヨハネ修士は、選挙の結果を管区長に知らせました。管区長はこれを承認しましたが、ヨハネ修士は、マラガの修道院で新たな選挙を司式するため、出かけることになりました。人々がこれを知った時、すなわちキリストのマリアがグラナダへ移動しなければならないことをマラガの姉妹たちが知った時、姉妹たちは皆いっせいに、その移動が行われないよう十字架のヨハネ修士に強く訴えました。マラガの創立はつい最近のことであったので、姉妹たちには、その移動がまったく馬鹿げていると思われたのでした。

ヨハネ修士は、彼女たちの示した理由を無視しませんでした。問題は「長上の命令であり、それゆえ実行しなければならない」と主張し、自己を弁護しました。翌朝、マラガをまさに去ろうとした時、彼と共にいたホアン・エヴァンヘリスタ修士に——彼は次のように証言しているのですが——言いました。「神のところへ行き、神が嘉されることを見ましょう」と。その日は、彼が大きな信心を持っていた聖マルティン司教の日でした。彼はミサをささげ、祈りました。ミサが終わろうとする時、彼は私にこう言いました。“よろしい、私たちは出かけることができます。今回のことは神に嘉されました”。そこで私は、それが従順の問題であると知りました」。すなわち、長上は、キリストのマリア修母がマラガで院長職を続けることを承認したのです。



四旬節第 5 主日

ラザロの甦り

(ヨハネ 11：1～45))

今回の個所は、イエスの力と愛が最もよく現れている場面です。ドストエフスキーの『罪と罰』の中で、娼婦ソーニャの信仰を示すのにこの個所が用いられていました。

ルカ 10 章 38 節以下に、マルタとマリアが出てきます。活動的なマルタと観想的なマリアです。ヨハネ 11 章でも二人の同じ特徴が出ています。すなわちマルタが主を迎えに行き、マリアは姉に言われて初めて主に会いに行き、主の足元にひれ伏します。しかしルカと違い、ヨハネではマルタが素晴らしい信仰告白をします。マルタの言う「メシア(原文はキリスト)」、「神の子」「世に来るべき方」は、最初の信仰告白の定式であったのではないかと問われています。

イエスはマリアたちが泣いているのを見て、心に憤りを覚え、興奮します(34 節、また 37 節)。人間の不信仰に対する怒りというよりも、人間を支配している死の力に対して怒っておられるのです。

イエスは怒るだけでなく、泣きます。マリア、マルタや他の人々が泣いているのを見て、心を動かされ、同情・共感したのです。ヘブライ人への手紙 2 章 11 節に「イエスは彼らを兄弟と呼ぶことを恥としなかった」とありますが、まさにその通りの場面です。神としてはラザロが甦ることが分かっておられたのですが、人間としては友人の死が悲しかったのです。

主は「石を取りのけなさい」と言われます(39 節)。イエス一人の力でできることですが、人間の協力を求めておられます。

ラザロの甦りは、「死んだ者が神の子の声を聞く時が来る。今やその時である。」(5 章 25 節)の実現といえます。これは復活とは違います。甦った者はやがてまた死ぬからです。12 章 11 節でラザロを殺そうとする陰謀が書かれています。福音書にも使徒言行録にも、その後ラザロは出てきませんから、おそらく殺されたのだと考えられます。ラザロの甦りは、主の復活の前味であり、しるしです。死は、主の復活と十字架によって決定的に打ち破られます。しかし、信仰の弱い私たちにはこういうしるしも必要なのです。私は復活であり、命であるという主の言葉の証明として、ラザロは墓から出てきます。

(新井)

枝の主日 (A) (マタイ27:11~54)

本日の枝の主日から聖週間が始まり、イエスはエルサレムへの凱旋されます。しかし、これはとりもなおさずイエスの苦しみと死へ導くものです。イエスのためにホザンナと叫び、メシアと呼んだ人々が、すぐに十字架につけると叫び、正しい人ではなく犯罪人を選ぶこととなります。簡単な言葉で言えば、枝の主日はイエスの生涯の最後の週を思い起こすときです。

本日の朗読箇所は、イエスが人間として苦しみ、多くの苦痛と拷問を受けたことを語っています。それは、あたかもイエスの全ての使命が崩壊し、全てが失敗であるかのようにみえます。弟子たちは苦しむイエスをひとり残し、イエスが逮捕されるとすぐに逃げ去りました。この苦しみの間ずっと、イエスは恐ろしいほどの孤独を経験しました。園の中でイエスが弟子たちの支えを必要としていたとき、弟子たちは眠り込んでいました。イエスを捕らえる人が来るとすぐに逃げ去りました。御父でさえ沈黙し、イエスの苦しみを減らすため何もしませんでした。十字架から痛切な最後の叫びが聞こえます：「わが神、わが神、なぜわたしをお見捨てになったのですか?」。苦しみと屈辱の中で、イエスは他者の必要を考え、敵のために祈り、赦しました。しかも、成し遂げられたとの十字架上での言葉でご自分の務めを完成し、御父のみ旨と使命を全うします。

イエスの受難を考えることから多くの重要な点が見えてきます。自分自身への反省、そして時々イエスに応答する多くの方法です。私たちはときにユダのようです、イエスを裏切り、後悔します。ときにペトロのようです、イエスを否みます。弟子たちはイエスが一番苦しんでいた間ずっと眠り込んでいましたが、イエスが捕らえられるときには猛然と激しく抵抗します。ときにシモンのように余儀なくイエスの十字架を担わされます。ときには指導者たちのようにイエスを恐れ、あるいはポンシオ・ピラトのように責任を逃れて手を洗います。イエスは私たちの罪を赦すために死ぬのです。

キリスト者にとって聖週間は、イエスのご受難の苦しみとご復活の喜びに心を準備する時です。これは最後の晩餐、イエスの祭司職、イエスの苦しみと圧倒的な勝利の王職の神秘へ導きます。イエスは御父に従順であり、全ての人を救うために苦しみ、そして死ぬという御父のみ旨を受け入れました。この苦しみを受け入れるように導いたのは、神と人間へのイエスの無条件の愛でした。イエスに寄り添って敬虔に歩み、主のご復活の栄光に向けて準備しましょう。

(Sr. Paulina)

復活の主日

復活とは何か

偉大な人、巨人が亡くなると、その人の影響下で生きていた人は、息ができないほどの虚脱状態に陥ります。世界に巨大な空白ができたように思われるのです。ソクラテスが死んだときのプラトンはこういう状態でした。釈迦涅槃図を見れば、どんなに弟子たちが嘆き悲しんでいるかがよくわかります。某作家が、今の社会が面白くないのは三島由紀夫がいないからだと書いていました。(その時点で)38年前になる彼の死がいまだに衝撃を与えているのかと驚かされました。

ところがイエスの場合、突然の刑死によりもたらされた虚脱は二日間しか続きませんでした。不思議なことです。何かとてつもないことが起こり、イエスの支持者たちは喜びで満たされるようになり、そしてその喜びが消え去ることはありませんでした。ラザロの甦りの場合、肉親・親友は大いに喜んだでしょうが、やがて彼はもう一度死に、今度は甦ることがありませんでした。

パウロは復活について、コリント人への第1の手紙15章で詳しく語っています。「自然の命の体で蒔かれて、霊的な体として復活する」(44節)と説明します。復活とは、人間の肉的部分が神によって霊的とされることだということです。この場合の「肉」は人間本来の全体性といった意味です。人間は墮罪後滅び去るはずのものとなりました。「塵に過ぎないお前は塵に返る」(創世記3章19節)と人祖に神が言われた通りです。滅び去るはずのものが復活します。イエスは触れば、ちゃんと触ることのできる肉体を持って甦りました。しかし、普通の肉体ではなく、戸に鍵をかけた家の中に突然現れ、突然消えることができました。つまり、栄光化された霊化された肉体をお持ちでした。甦られたキリストが肉体を持っておられることを強調なさったのは、おそらく肉体が完全に人間であるために必要だからだと思われる。人間は自分の力で、自分が究極的どうい存在であるかを知ることができません。神の側からの啓示によってそれが知らされたのです。神は人間の存在全体を聖化する予定で人間を創造されたのです。

キリストは初穂として蘇りました。それはキリストを信じる者がすべて甦るためです。信仰宣言で「体の復活を信じます」と言う通りです。人間は自力では霊的なもの(神からのもの)を獲得できません。キリストの復活により、肉的部分と霊的な部分の連続性が実現し、すべてに人にこの可能性が開かれました。これが救いの中心です。私たちは肉ですが、すでに霊をいただいています。そして肉は霊につながっていて、いつの日か霊によって、肉が肉でありながら聖化されます。これが体の復活です。主がこの道を開いてくださいました。(新井)

復活の主日

(ヨハネ 20:1-9)

主のご復活おめでとうございます。大きな喜びのうちにお過ごしになられます様に。今日の福音は、ヨハネの福音書の「イエスのご復活」場面です。少し横道に逸れますが、前の場面に遡ると、イエスが葬られた日の夕方から安息日が始ったため、その日には、人々は十分に遺体をお世話することができず自分の家に帰らざるを得ませんでした。その安息日が終わった日が、この週の初めの日でした。

そのような状況の中で、亡くなられた主のもとへとマグダラのマリアは行きました。亡くなられた主イエスに会いに、愛にかられ朝早く、まだ暗いうちにもかかわらず…。そして「墓から石が取りのけてあるのを見た。」と述べられています。それをマグダラのマリアは、主が復活された…と理解できずに、主が墓から取り去られた…と弟子たちのところに走って行って彼らに告げることになります。

ペトロともう一人の弟子ヨハネ、2人共走って墓に来ますが、先に着いたヨハネは、ペトロが着いて先に入るまで、中に入ろうとしませんでした。ペトロが弟子たちの中で一番の者であるということがここに現れているのでしょうか。

イエスのそば近くで仕え、イエスの言葉や行いを身近で見聞きしていた人であっても、「イエスが必ず復活される…」ということをも、まだ十分に理解していなかった訳です。ヨハネはペトロに続いてイエスが葬られた墓に入って、来て、見て、信じました。

ヨハネは、イエスが墓におられないことを見た、すなわち物事やその状況を単に見たということではなく、表面的な出来事として捉えたのではなく、その背後に何があるかを信仰の目を持って見、イエスの復活されたことを見て信じた最初の者となったのです。

私たちもこのイエスの弟子の様に、イエスの復活を信仰の目を持って信じ、年ごとに記念するこの祝いを祝いましょう。信じない者ではなく、信じる者となりましょう…。イエスは復活されて、私たちとともにいて下さいます。ともにおられるだけでなく、ご聖体としてご自分を私たちのために、あますところなく今日も与えて下さるのです。そのお方を信じ、そのお方に支えられながら、これからともに歩んでゆきましょう。

(Fr. 古川利雅)

復活節第2主日（神のいつくしみの主日）（ヨハネ 20:19-31）

今日は神のいつくしみの主日、復活節の第2主日です。2000年4月30日聖マリア ファウスティナの列聖式で教皇ヨハネ パウロ二世が命名され、ヴァチカンが正式に布告しました。この特別な主日は聖週間と復活節の間の全ての神の啓示による超自然的真理と恩寵（恵み）を一つに収束しているように見えます。復活されたキリストの光が、世界中の人々ために放射されるキリストのいつくしみの愛と恵みの輝かしい光に統合されています。

聖ファウスティナにご自分を顧まれたイエスはこの祝日を特別に祝ってほしいと言われました。この祝日はイエスご自身の人類への優しい思いやりからほとぼしり出たもので、人類はこのいつくしみの泉の方に心の向きを変えないかぎり決して平和を得ることが出来ない。この神聖な泉の水門はいつも開かれており、たとえどんな罪があろうとも、イエスに近づくことを怖れてはならない。いつくしみの主日はご自分の愛の極みそのものから自然にほとぼしり出たものだからとイエスは聖女にお話になりました。

福音では、トマが手を伸ばしその傷に触れることができるように、自らトマのすぐそばに立っておられるイエスに出会います。仲間の弟子たちから聞いたイエスの復活を信じることが出来ず苦しんでいるトマを身近に招き寄せ、いつくしみで溢れる主のみこころに触らせてくださいます。トマはもはや救い主の復活を疑うことも、罪の赦しを約束された神のいつくしみを疑うことも出来ませんでした。このトマと一緒に、わたしたちもイエスのみ心に触れる距離に近づき、全ての靈魂をこれほどまでも愛し給うイエスのいつくしみのみ心を、目を凝らし、じっと眺めてみましょう。

イエスの近くでそのみ心に触れるだけではなく、わたしたち自身の処にイエスをお招きし、心に触れていただきましょう。重い皮膚病の人が癒しを願って崩れた患部をイエスに差し出すように、わたしたちも罪や不完全さで歪になっている心（靈魂）を差し出しましょう。聖ファウスティナは教えています、わたしたちにとって必要なことは信頼のうち心を開いたままにしておくことです。そうすれば神でいらっしゃる主は全てのことをしてください。神の“聖なる指”はわたしたちが必要とする処に触れ、その恵みによって、特に和解の秘跡を通して癒してください。

主イエス、弟子たちや聖ファウスティナに示してくださった、あなたの考えられぬほどのいつくしみと愛を深く心に刻みます。感謝に満ち、あなたの愛といつくしみの御手のうちにいつも留まらせてください。

（Sr. Paulina）

糸巻き棒からペンへ(19)

現代人のためのイエスの聖テレジアの教え



エドゥアルド・サンス OCD

聖人たちの伝記を読んだ少女テレジアや聖人たちを人生の模範と見なした同時代の多くの人々に、イグナチオ・デ・ロヨラに起きたことと同じことが起こりました。16世紀の人々にとって、聖人や神学教授や宣教師や禁欲的な生活を送る修道者たちは、今日の映画スターやスポーツのヒーローや大企業の経営者のように、非常に魅力的だったのです。

さらに、その時代の主な社会的活動は、ミサの説教や行列やあらゆる種類の宗教儀式に参加することだったのです。各家族には、自分の国や海外宣教において、主の奉仕のために自己奉献した人々が何人もいました。国民全体が何らかの奉仕団体に所属していました。聖母や聖人や聖週間の諸秘義を崇める団体から、貧しい人々や孤児や病人や受刑者を助けるための団体までいろいろでした。

その時代では、宗教的生活の真正性は、放棄の能力や苦行によって測られました。聖人伝には、断食や犠牲のことが書かれていました。テレジアも、それをまねしようとして、健康を損ない、命を危険にさらしました。「聖人の生涯には賞賛すべきものや模倣すべきものがある」ことを認めつつも、聖女は、この問題を思いめぐらし、その後、当時のメンタリティーから距離を置きました。苦行は賞賛すべきもののカテゴリーに、諸徳は模倣すべきもののカテゴリーに入れられました。このテーマについては、サン・ホセ修道院の創立や、そこで行われた生活様式について話す時に、もっと深めることができるでしょう。

テレジアの家系

少し前まで、聖テレジアのすべての伝記は、聖女の先祖が貴族であるとの記述から始まっていました（これは歴史的に偽りであるにもかかわらず、いくつかの現代の伝記は、そのまま踏襲しました）。すでに列聖調査において、多くの人々が、彼女が古いキリスト教徒の子孫であり、「すべての人が知っているように」貴族の出身であると証言しました。というのも、バロックの宗教性では、聖女の血が平民の先祖によって「汚される」ことはあり得ないと、当然のごとく思われていたからです。 (続く)

毎日のように歩いて通る道に山茶花の植え込みがあります。
私は山茶花の花が好きです。

今はもう花はいのちの全部をもって咲き終わり、散り落ちてしまっていますが、それでも葉のかげに、終わりきれていないひっそりした花弁を見ることがたまにあって、思わず足が止まります。

少し前の寒かった頃は、楚々とした白、薄い紅色、まだら模様のものたくさんに花が揃い、私は毎日飽きもせずひとつひとつを愛でて賞美し、豊かな愉しみを味わいました。　また時とするとふっと迫られるものに動かされ、北風に身をすくめながら手をのべ、ひらひらの花びらに触れしんと静まって、そして突如として、深い沈黙に出会うかのような瞬間が訪れることがありました。全身を包み込むようにしみ込んでくる沈黙は、私は今ここにある　という深く確かな感覚に重なり合い、沈黙の内の私なのか私の内の沈黙なのかと境界を失って溶け合うかの安息となり、魂の僥倖というほかないのでした。

何かの本で見て書きとめておいた句です。

「こぼれても山茶花薄き光帯び」　（眞鍋呉夫）

この頃なぜかとみに自然のいのち、自然の営みといったものに関心を呼び覚まされることに、少しびっくりしつつもそういう自分自身に興味津津なのです。

これまではどちらかと言えば、自然というものに対してことさらに気持ちをひかれたりすることはなく、せいぜい登山道の草花に感激して見とれたり、頂上での深呼吸、(そこに「山」があるから登るのでなく、登る「私」に重きをおく山登りでした)それから桜の花が咲き始めた、散ってゆく、という程度の感慨であり、それらが生きることを動かすほどの影響とはならなかったと思うのです。

昔から「人間だけで精一杯」と人にも自分にも宣言していて、友人たちが語る動物や植物など自然の世界との親しい交流や感動的な話に、耳を傾け好ましく思ったりするものの、やはり関心が人間以外のものに向かうことはなかったといえるでしょう。

知識や理解力があるわけでもないのに、形而上の世界や自分自身の抱え持つ孤独、寂寥、暗闇の深さにおののき、どうしても逃れることができず、ここを歩むことを恐らく生まれ落ちたその時から探し求め、追い求め、問い続け、問われ続けるの、辿るべくして辿ってきた人生であったと思い認めています。

この後もずっとそうであるでしょう。

しかし今になって、この自然界の人間以外のいのちの営みに五感を開き、心をひらく自分を、内心やれやれと独り笑いたくなりながらも、素直によるこび感謝し満ち足りるものを感じるのです。

これまでも思い起こすなかに、それでもひとつだけ忘れられないことがあります。それは息子が結婚するときだった時のことです。その時の私の精神状態は、人間というよりもっと以前の、どういふのでしょうか、神さまが創造された生命の仕組みそのもののただなかにあったというのでしょうか。感情、情緒、理屈の類は役に立たず、ただ黙して従うほかはないのだという絶対的なものに相対して、ただ頭を垂れるだけだったのです。その時私はどういふわけかひとつのことに捕らわれました。 蛙が川を遡上して産卵しそこで死ぬ というこのことを、夢にうつつに幾度も幾度もふらふらと際限なくさまよい思い浮かべました。生命と死は分かちがたい結びであることを、理ではなく魂の畏れの内に厳粛に知ったのでした。私は息子を送り出しました。

以前にも当誌に一度記したことがあります。子を失い悲しみのあまり死んだ母猿の腸が、細かくちぎれていたという故事「断腸」の話は、猿の話だからこそ虚飾も斟酌もなく、生命同士としての共感直接的であり、神さまの創意をひしひしと身に受けるのです。

このところテレビの画面などで見る動物や植物の生態の番組は大のお気に入りとなり、目を心をひきつけられています。

「人は猿から天使までを生きる」といふようなことを、どこで見たのか聞いたのか、誰の言葉だったのか、ほんとうの意味するところも何だったのか、記憶がはっきりしませんが、でも今、ああそうなのかと合点が行く気がしています。

この世のあらゆるすべての生命と同じに、このいのちもいつか終わりとなります。天に帰る身であることを深く心に刻み、イエズスに従いイエズスと共に永遠のいのちに入る身であることを、今日確かめたいと思いました。

追記です。

カルメル霊性センターニュース 2月号、3月号の樹木の表紙、とてもいいです。論のなさ、定まりのなさ、すじ道のなさ、静かにじっと眺め見つめています。

いのちの言葉 4月

一緒にお泊り下さい。
もう日も傾いていますから

(ルカ 24・29)

今月のみ言葉は、二人の弟子がエルサレムからエマオという村に行く途中に出会った、「見知らぬ人」に向けられた言葉です。

道中二人はエルサレムで起こった出来事について話していましたが、その人は、何も知らないようでした。二人は彼に「神と民全体の前で、行いにも言葉にも力ある預言者であったイエス」について語りました。

すべての望みをイエスにかけていた二人でしたが、イエスが引き渡され、十字架につけられてしまうという、あまりにも悲惨な結末に、その意味を理解できないうでいました。

すると「見知らぬ人」は、道すがらこの二人に、聖書に記されていることを説明し、その意味を理解できるように話したのです。彼らの心には再び希望の光がともりました。

エマオに着くと二人は「一緒にお泊り下さい。もう日も傾いていますから」とその人を引きとめました。食事の席につくとその人はパンを取り、裂いて、彼らに分け与えました。

その瞬間、二人の目が開け、十字架上で死んだイエスは、今や復活し生きておられるとわかったのです。二人は直ちに、エルサレムに引き返し、他の弟子たちに、この大きな喜びのニュースを告げ知らせました。

私たちも、何の罪もない無防備な人々が虐げられるのを目にするとき、何もできない自分の無力さに失望し、勇気を失います。私たちの人生には苦しみや不安、暗闇の瞬間が常にあります。

そんなとき私たちは、いつかのような平和と光をまた見出せたらと、どれほど渴望するでしょうか。自分のことを心底わかってくれ、再び希望の光を人生にともしてくれる「誰か」との出会いを、どれほど待ち望んでいるのでしょうか？

神であり、人でおられるイエスは、私たち人間の弱さ、惨めさ、そのすべてをご自分のものとされるためにこの世に来られました。

イエスは肉体的な苦しみだけでなく、内面的な苦しみも体験され、弟子たちから裏切られ、いつも「御父」と呼んでいた神からも自分は見捨てられた¹と感じられました。しかし、そんな苦しみの絶頂にあって、再び神の御手にご自分のすべてを委ねられ²、神から新たな命をいただきました。

イエスは、ご自分が歩まれた道に私たちを招いておられ、私たちの歩みに寄り添いたいと望んでおられます。

キアラは記しています。

「あらゆる苦しみの中にイエスはおられます。不安や苦難、暗闇、自分や周りにいる人々の悲しみや苦しみのうちに、イエスの姿を見出すようにしましょう。どんな苦しみもイエスの姿です。あらゆる苦しみをご自分のものとされたからです。そして、新しい命で満たされるために、例えば貧しさの中にいる人の苦しみを和らげるために具体的に何かをすることです。³」と。

7歳の女の子の体験です。「お父さんが刑務所に入れられて、とても悲しかった。でも面会に行ったときお父さんの中のイエスを愛するために泣きませんでした。」

結婚して間もない女性の体験です。「夫のロベルトが余命わずかだと宣告され、私は最後の数か月間、彼に寄り添い、そばを離れませんでした。ロベルトの中に、十字架につけられたイエスを見つめていました。」このご夫婦の姿は、まわりの友人たちにとって大きな光となり、連帯の輪が生まれ、「Abbraccio Planetario（世界規模のハグの意）」と名づけられた社会支援活動に発展しました。「ロベルトとの体験を通して、日々神に向かって歩いていくことの大切さ、苦しみの意味が分かったような気がします」と一人の友人は語っています。

今月は、すべてのキリスト者がイエスの死と復活の神秘を祝います。苦しみを愛に変えてくださる神への信仰をあらたにするときでもあります。すべての苦しみ、たとえば執着を断つことであったり、分裂であったり、失敗や、死の苦しみでさえも、すべては光と平和の源泉となることができると、私たちは知っているからです。

どんな状況にあっても、一人ひとりのそばに神がいて下さることを確信し、私たちも「一緒にお泊り下さい。もう日も傾いていますから」とイエスにお願いしましょう。

レティツィア・マグリ

いのちの言葉は聖書の言葉を黙想し、生活の中で実践するための助けとして、書かれたものです。

いのちの言葉の集い

関東 4月9日(日) 13:30~ 神奈川 カトリック藤沢教会 204号室
(週日に、調布、鷺沼、戸塚、厚木、千葉、浦和、鹿沼でも)

中部 4月9日(日) 14:00~ 瀬戸市みずの坂 サポートハウスゆうや

長崎 4月23日(日) 11:00~ カトリック浦上教会 要理教室

連絡先: フォコラーレ東京 03-3330-5619/03-5370-6424 長崎 095-849-3812

E-mail: tokyofocfem@gmail.com

ホームページ: conil157ch1.wix.com/focolare-jp

¹ マタイ 27・46、 マルコ 15・34 参照

² ルカ 23・46 参照

³ キアラ・ルービックによる「いのちの言葉」Città Nuova, 43 (1999年4月) 6, p. 47

跣足カルメル修道会HP (International)

跣足カルメル修道会ローマ本部のホームページ <http://www.carmelitaniscalzi.com> の記事を紹介します。



ORDEN
CARMELITAS DESCALZOS
• CURIA GENERAL DEL CARMELO TERESIANO •

<< Communications (時事通信) >>

2017年02月25日

カナンガ-マロレのカルメル会修道女たちが避難



コンゴ民主共和国中部西カサイ州にあるカナンガ地域で一年以上にわたり、その土地の多数派民族とキンシャサ中央政府との衝突が起っており、地域リーダーのカムイナ・ヌサプが殺害されました。反乱を宣言してきた彼の民兵たちは、コンゴ軍の増強にもかかわらず、市民に被害をもたらす多くの問題を引き起こしています。

特に、民兵たちは、平和の仲介者となっているカトリック教会に対し、怒りの矛先を向けています。怒り狂う反乱者たちは、教会が政府を支援しているものと理解しているからです。

こうして、先週の土曜日2月18日に、民兵たちはマロレの王たるキリスト大神学校を略奪し、同日、マロレの女子跣足カルメル修道会の修道院に押し入りましたが、幸い、シスター達は無事でした。

しかし、さらなる被害を避けるために、コンゴのバチカン大使は、すぐもどれることを希望しながら、シスター達を、市の中心にある、より安全な「タボル黙想センター」に避難させることに決定しました。

現地にいるシスター達とその紛争地域の人々のために、お祈りで支えましょう。

跣足カルメル修道会HP (International)

跣足カルメル修道会ローマ本部のホームページ <http://www.carmelitaniscalzi.com>
の記事を紹介します。

<< **Communications** (時事通信) >>

04//03//2017

Visits by the General Delegate for the OCDS

During the months of January and February, Fr. Alzinir Debastiani, ocd, the Father General's delegate for Secular Carmelite communities, made two important visits to OCDS communities.

The first was in Croatia from January 27th to 30th of this year at the invitation of Father Sreko Rimac, ocd, Provincial. He was accompanied by Father Dario Tokic, ocd.

Together, they visited the OCDS communities in Zagreb, Split and Krk, and also visited the Discalced Carmelite nuns in Brezovica.

Meetings with the Discalced Carmelite students and the assistants of the various communities were particularly important. Father General's Delegate talked about the current situation of the OCDS in the world, its needs, and the importance of accompanying the communities and collaborating with them within the apostolic mission of the friars.

There are two formed communities in Croatia: Sombor y Zagreb-Remete, although the latter was divided in two last year due to its large number of members. Two other communities are in formation: Split and Krk. In Sofia, Bulgaria, there is another community founded in the late 60s around the nuns' presence that is dependent on the Province.

Within the harshness of the communist regime, they lived out their consecration in hiding. Thanks be to God, the community renewed normal activity from the year 2000 forward and currently has eight members.

Near Zagreb there was a flourishing community in Lasinja. The disasters of the 1990s war caused great damage, human and material, and dispersed the inhabitants of the area. May God grant that one day that fraternity will be recreated.

Afterward, between February 11 and 12, Father Alzinir Debastiani visited the OCDS communities in Sardinia. These belong to the Province of Central Italy. On Saturday the 11th, representatives of the communities of that city, Ozieri, and Bosa, met in the Discalced Carmelite monastery of Nuoro. The visit with the communities of Cagliari-Sant'Isidoro and Pula, as well as with some members of the new community that is forming in Cagliari, took place on Sunday.

There was time for sharing the activities of each community in a fraternal setting, reinforcing the bonds that unite all Sardinian Secular Carmelites in the selfsame vocation to the Teresian Carmel. God grant that new vocations come to the OCDS and to the friars and nuns of Sardinia.



奥村一郎選集

追悼 奥村一郎師

その時と場所で与えられた役割を
誠実に果たし続けた師が遺す珠玉の名編

四六判・上製・平均 240 頁・各巻とも **本体 2000 円**+税

日本の文化の中で福音が豊かに開花することを求めて祈り、思索した奥村一郎師。本選集は半世紀にわたるその膨大な著作、講演等の記録から特に重要と思われるものを選び、テーマ別に集成したものです。豊かな霊性をたたえた祈りの人であり、東西霊性交流など宗教対話のダイナミックな推進者。静謐さと情熱を併せ持つ著者が紡ぎ出してきた言葉の数々は、神と人に真摯に向かう姿を私たちに示してくれます。ときにユーモアを交えたその視座は、日本における福音宣教を願うすべての人々にとっての道標となることでしょう。

第1巻



慈悲と隣人愛 解説・西村恵信

日本文化に影響を与える仏教の光を当てつつ聖書を読み、キリスト教の本質理解に近づく。カトリックから禅へ/小事と瑣事/禅とキリスト教における靈的修行

第2巻



多文化に生きる宗教 解説・橋本裕明

宗教対話と霊性交渉から得られた柔軟な視点から、日本での新たな宣教の可能性を示す。大いなる贈け—宗教対話/日本人とキリスト教—遠藤文学の魂

第3巻



日本の神学を求めて 解説・小野寺 功

日本の地に根ざす神学、その開花の可能性を福音の原点である相互愛から問いかける。日本の神学—根源への問い/相互愛/「信ずる」と「愛する」/新しい掟

第4巻



日本語とキリスト教 解説・阿部仲麻呂

関係性を重視する表現が中心となる日本語を手がかりに、ことばと信仰の関係を再考する。日本人の心とその精神構造/「ことば」から「みことば」へ/聖書と翻訳

第5巻



現代人と宗教 解説・鶴岡實雄

宗教不在とされる現代、人々が直面する課題にキリスト教はどう向き合っているのか。現代人とキリスト教/偶像の喪失/屈辱/「新しい人」としての真人

第6巻



永遠のいのち 解説・八木誠一

生と死、罪と恵み、正義と愛—人間の栄光と悲惨を見極め、永遠のいのちへの道を探る。嬰兒復帰/人間の栄光と悲惨/神は死せり/十字架の秘義/人間と世界と神

第7巻



カルメルの霊性 解説・高園泰子

愛ゆえにすべてを、命さえも失ったイエスを追い求めるカルメル。その霊性の根源に迫る。アビラのテレジア/十字架のヨハネ/小さきテレーズと東洋的霊性

第8巻



神に向かう〈祈り〉 解説・高橋重幸

東西における祈りの方法論を丹念にたどりつつ、キリスト教の祈りの本質を明らかにする。考える祈り、思う祈り、愛する祈り/現代における祈りの指導者/祈りとは何か?

第9巻



奉獻の道 解説・宮本久雄

すべての人にみずからを与えつくす奉獻生活を通して、人間そのものの神秘を見つめる。清らかな矛盾/世を変えるパン種として/清貧の誓願/現代に生きる修道者の霊性

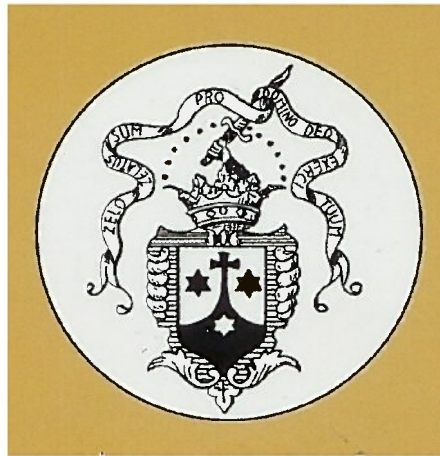
カルメル会会員、在俗会メンバーの方々には特別割引があります。直接お問い合わせ下さい。

オリエンズ宗教研究所 〒156-0043 世田谷区松原 2-28-5

TEL : 03-3322-7601 FAX : 03-3325-5322

ホームページ : <http://www.oriens.or.jp/>

カルメル会の企画案内



カルメル会の標語

Zelo zelatus sum pro Domino Deo exercituum

私は万軍の神、主に情熱を傾けて仕えてきました（列王記上 19 : 10）

カルメル会

四旬節講話シリーズ

三位一体の聖エリザベトの祈り —現代人へのメッセージ—

日時： 3月5日（日）： 片山 はるひ氏（ノートルダム・ド・ヴィ）
「エリザベトと共に生きる —永遠の光のもとで— 」

3月12日（日）： 大瀬 高司神父（カルメル会司祭）
「続・歴史の中の三位一体のエリザベト」

3月19日（日）： 九里 彰一神父（カルメル会司祭）
「三位一体のエリザベトにおける苦しみの神秘」

3月26日（日）： Sr. ポーリン・フェルナンデス（カルメル宣教修道女会）
「三位一体のエリザベトによる『聖書に基づくキリスト中心の生活』」

4月2日（日）： 松田 浩一神父（カルメル会司祭）
「父と子と聖霊の唯一の神を信じる —三位一体のエリザベトと共に— 」

上記各日曜日、午後二時半開始、入場無料（講話後、主日ミサ）
〈カルメル修道会主催〉

場所：カトリック上野毛教会聖堂

（東急大井町線上野毛駅下車 徒歩7分）

世田谷区上野毛 2-14-25 カルメル修道会 [TEL:03-3704-2171](tel:03-3704-2171)

PRIÈRE DE SŒUR ÉLISABETH DE LA TRINITÉ

M. M. J. E.
O mon Dieu Trinité que j'adore
aidez moi à m'oublier entièrement
pour m'établir en Dieu immortel
et paisible comme se déjà mon
âme était dans l'éternité; que
rien ne puisse troubler ma paix, ne
me faire sortir de vous ô mon Dieu
qui habitez mystère dans la profondeur
de notre Trinité. Pacifiez mon âme.
O mon Christ avec moi, que
rien ne puisse troubler ma paix, ne
me faire sortir de vous ô mon Dieu
qui habitez mystère dans la profondeur
de notre Trinité. Pacifiez mon âme.

神はわたしのうちに わたしは神のうちに

三位一体のエリザベットとともに生きる

伊 従 信 子

ISBN978-4-88216-264-3 C0116

定価540円(税込) 197頁

【聖母文庫】 217



ご注文
承り中



「わたしの一生に太陽の光がさんと注いでいたのは、『心の深みに住まれる神』と親しくしていたからでした。」

2016年10月16日に列聖された三位一体のエリザベットの26年間の生涯とその熱い信仰に迫る一冊です。

ご注文・お問い合わせ先

聖母の騎士社 TEL.095-0012 長崎市本河内2-2-1
TEL.095-824-2080 FAX.095-823-5340

上野毛霊性センター 2017年4月～2018年3月

黙想企画 **上野毛聖テレジア修道院(黙想)**

1. 祭日のミサに参加するために

【聖週間】 チェックイン午後3時以降可、チェックアウト午前10時

聖木曜日から復活祭まで通して参加可能です。またどの曜日からでも参加可能です。

2017年 4月13日(木)夕食～16日(日)朝食《講話なし、各食事つき》

【クリスマス】 チェックイン午後3時以降可、チェックアウト午前10時

2017年12月24日(日)～25日(月)朝食《講話なし、夕食なし》

2. 日帰り一日黙想会 13時30分～16時 福田正範神父

私たちの毎日の生活が神のみことばの光によって照らされますように・・・。

2017年

4/6 (木)、4/28 (金)、5/12 (金)、5/25 (木)、6/15 (木)、

6/30 (金)、7/7 (金)、7/20 (木)、9/21 (木)、10/27 (金)

11/10 (金)、11/30 (木)、12/7 (木)、12/22 (金)、

2018年

1/11 (木)、1/26 (金)、2/8 (木)、2/23 (金)、3/8 (木)、3/23 (金)

*各日、午前から個人静修も可能です。(昼食付)

*申し込みは、3か月前より受付致します。

3. 奉獻生活者のための黙想会

2017年

8月 1日 (火) 17時～ 8月10日 (木) 朝 福田正範神父

8月16日 (水) 17時～ 8月25日 (金) 朝 福田正範神父

12月27日 (水) 17時～2018年1月5日 (金) 朝 福田正範神父

4. 奉獻生活者ならびに一般信徒のための黙想会

2017年

10月10日 (火) 17時～10月19日 (木) 朝 福田正範神父

5. 青年黙想会(男女) 35歳位まで

2017年

4月22日(土) 16時～23日(日) 16時

カルメル会士

2018年

2月10日(土) 16時～12日(月) 16時

カルメル会士

6. 召命黙想会(男女) 40歳位まで

2017年

11月3日(金) 16時～5日(日) 16時

カルメル会士

7. 四旬節黙想会(テーマ:ゆるしの喜び)

2017年

3月18日(土) 18時夕食～20日(月) 16時

福田正範神父

8. 特別黙想会

S r. 伊従信子(ノートルダム・ド・ヴィ)

2017年

12月8日(金) 20時～10日(日) 16時

- * 日程、指導司祭は変更される可能性もあります。お申込みの際には、カルメル会霊性センターニュース、ホームページ (<http://www.carmel-monastery.jp>) なども合わせてご覧下さい。
- * こちらに掲載されている以外の日時にもご利用可能です(グループ、個人いずれも)。お気軽にお問い合わせください。
- * 間違いを避けるため、お問い合わせはFAX・はがき・Eメール等、文書でお送り頂きますと幸いです。

〒158-0093 東京都世田谷区上野毛2-14-25

[Tel:03-5706-7355](tel:03-5706-7355) Fax:03-3704-1789

Eメール: mokusou@carmel-monastery.jp

ホームページ: <http://www.carmel-monastery.jp>

*****日帰り黙想会*****

☆☆☆聖人たちをささえた神のことば☆☆☆

“聖書を知らないことは、キリストを知らないことだ”とヒエロニムスは言いました。
第二ヴァチカン公会議においても次のように語られています。

「すべてのキリスト者は、しばしば聖書を読んでキリストを知るすばらしさを学ぶように強く特別に奨励する」(啓示憲章6章25)信じる人々を支えた神のみことばの光に照らされますように…。

場所：カルメル会聖テレジア修道院(黙想の家)

指導：福田正範神父

*企画の一日黙想会は、都合により、半日の日帰り黙想会に変更になりました。

午前中を個人黙想として静修をご希望の方は午前10時～ご利用が可能です。

昼食の準備のためあらかじめご連絡をお願い致します。

費用：午後からのご参加・・・¥2000、午前からのご参加・・・¥3500

日時：	2017年	4月	6日(木)	午後1時30分～午後4時
			4月28日(金)	〃
			5月12日(金)	〃
			5月25日(木)	〃
			6月15日(木)	〃
			6月30日(金)	〃



お問合せ・お申込み

カルメル会聖テレジア修道院(黙想)

〒158-0093 東京都世田谷区上野毛 2-14-25

TEL. 03-5706-7355

FAX. 03-3704-1789 Eメール:

Eメール: mokusou@carmel-monastery.jp

聖週間の典礼に参加するための黙想会

聖なる過ぎ越しの三日間の典礼に参加し、黙想しましょう。

*日時: 4月13日(木)夕食～16日(日)朝食後 10時まで

13日(木)は、午後3時より入室できます

*費用: 一泊¥5000(一泊から可)

*お問合せ・お申込みは、上野毛聖テレジア修道院(黙想)

電話: 03-5706-7355 FAX: 03-3704-1789

Eメール:mokusou@carmel-monastery.jp



*****上野毛教会聖週間の典礼ご案内*****

4月13日	聖木曜日	6:30	読書の祈り・朝の祈り
		19:30	主の晩餐の夕べのミサ 洗足式
4月14日	聖金曜日	6:30	読書の祈り・朝の祈り
		15:00	十字架の道行
		19:30	主の受難
4月15日	聖土曜日	6:30	読書の祈り・朝の祈り
		19:00	復活の聖なる徹夜祭 洗礼式
4月16日	復活の主日	7:00	8:30 10:30 18:00

2017年 黙想会案内 (宇治カルメル会)

【一般のための黙想】 1泊2日 (午後5時～午後4時)

1月7日(土)～8日(日)	真の幸いへの道	中川博道神父
7月15日(土)～16日(日)	ロサリオの道：キリスト者の歩み	中川博道神父 (仮)
10月7日(土)～8日(日)	テレーズと共に生きる	中川博道神父 (仮)

【聖書深読黙想会】 1日(午前10時～午後4時)

1月14日(土)	7月1日(土)	中川博道神父
3月11日(土)	9月23日(土)	中川博道神父
5月27日(土)	11月25日(土)	中川博道神父 (仮)

【水曜黙想】 (午前10時～午後4時)

1月18日(水)	社会の中でキリストに従う (1)	松田浩一神父
2月22日(水)	社会の中でキリストに従う (2)	松田浩一神父
3月15日(水)	家族の保護者聖ヨセフに習う	Sr.ロサ
4月19日(水)	復活したイエスをさがす教会	中川博道神父 (仮)
5月17日(水)	ファティマの聖母	松田浩一神父 (仮)
6月7日(水)	社会の中で父と子と聖霊の唯一の神を信じる (1)	松田浩一神父 (仮)
7月5日(水)	社会の中で父と子と聖霊の唯一の神を信じる (2)	松田浩一神父 (仮)
9月6日(水)	嵐の中で試される信仰	Sr.ロサ
10月18日(水)	聖なるミサ 聖祭と聖母マリア	松田浩一神父 (仮)
11月29日(水)	「ラウダート・シ」を生きる	中川博道神父 (仮)
12月13日(水)	十字架の聖ヨハネの新しい人間	松田浩一神父 (仮)

【聖テレーズの黙想】 (午後5時～午後4時)

9月30日(土)～10月1日(日)	テレーズ帰天 120 周年	松田浩一神父 (仮)
-------------------	---------------	------------

【キリスト教霊的同伴】 午後8時～午後3時まで、(金)夕食なし

1月27日(金)～28日(土)	7月7日(金)～8日(土)	松田浩一神父
2月24日(金)～25日(土)	9月1日(金)～2日(土)	松田浩一神父
3月17日(金)～18日(土)	10月20日(金)～21日(土)	松田浩一神父
4月7日(金)～8日(土)	11月24日(金)～25日(土)	松田浩一神父
6月2日(金)～3日(土)	12月15日(金)～16日(土)	松田浩一神父

【四旬節の黙想】 (午後5時～午後4時)

3月18日(土)～19日(日)	真に生きる道を探して	中川博道神父
-----------------	------------	--------

【待降節の黙想】 (午後5時～午後4時)

12月2日(土)～3日(日)	神の秘められた計画	松田浩一神父 (仮)
----------------	-----------	------------

【カルメル青年の集い】(午前 10 時～午後 4 時)

6 月 4 日(日) キリストの過越しの実り 聖霊降臨 松田浩一神父 (仮)
11 月 23 日(木) キリスト者の聖性の道 松田浩一神父 (仮)

【一般のためのカルメルの霊性セミナー】(午後 5 時～午後 4 時)

2 月 10 日(金)～11 日(土) カトリック教会の教えとイエスの聖テレジアの霊性 松田浩一神父
5 月 2 日(火)～5 日(金) カトリック教会の教えとカルメル観想生活 松田浩一神父 (仮)
10 月 14 日(土)～16 日(月) イエスの聖テレジアの「自叙伝」(2) 松田浩一神父 (仮)
12 月 13 日(水)～14 日(木) 十字架の聖ヨハネの新しい人間 (2) 松田浩一神父 (仮)

【奉獻生活者の黙想】(午後 5 時～午前 9 時)

8 月 7 日(月)～16 日(水) 中川博道神父 (仮)
8 月 18 日(金)～27 日(土) 松田浩一神父 (仮)
11 月 7 日(火)～16 日(木) 中川博道神父 (仮)
12 月 27 日(水)～1 月 5 日(金) 松田浩一神父 (仮)

【English Retreat】(10am to 4pm)

3 月 4 日(土) Cross is the hope for our life. Sr.Rosa
6 月 10 日(土) A day with St.Therese Sr.Rosa
11 月 18 日(土) A pilgrimage to Jerusalem with Magi Sr.Rosa

【祭日のミサに参加するために】

<聖週間を祈る> (講話なし、各食事付き)

4 月 13 日(木)～4 月 16 日(日) チェックイン午後 4 時以降可、チェックアウト午前 11 時
(聖木曜日から復活祭まで通して参加可能です。またどの曜日からでも参加可能です。)

<クリスマス> (講話なし、各食事付き)

12 月 24 日(日)～12 月 25 日(月) チェックイン午後 4 時以降可、チェックアウト午前 11:30

—その他皆さまが企画なさったグループ黙想会個人黙想も歓迎いたします—

☆お申し込みは、電話でも受け付けておりますが、できるだけ FAX、はがき、Eメールでお名前と連絡先を御記入の上、お申し込み下さい。お電話は、なるべく午前 9 時～午後 5 時の間にお願ひいたします。受け付けが休みの場合は、その場ですぐにお返事できませんので、お手数でも後日改めてお問い合わせ下さる様をお願いいたします。

〒611-0002 京都府宇治市木幡御蔵山 39-12

宇治カルメル会 聖テレジア修道院 (黙想)

Tel 0774-32-7016, Fax 0774-32-7457

E-Mail:teresiauji@mountain.ocn.ne.jp

聖週間（聖木曜日夕べのミサから復活祭ミサまで）の 典礼のお誘い

今年の復活祭は、宇治カルメル修道会の聖テレジア修道院（黙想）
で過ごしてみたいはいかがでしょうか。

聖週間の時間割

4月13日（木）	19:30	主の晩餐の夕べのミサ ミサ後、聖体礼拝
4月14日（金）	6:30	読書課・朝の祈り
	15:00	十字架の道行
	19:30	主の受難の記念の儀式
4月15日（土）	6:30	読書課・朝の祈り
	17:30	晩の祈り
	19:30	復活徹夜祭（洗礼更新式あり）
4月16日（日）	6:30	復活祭・朝の祈り
	9:30	復活祭ミサ
	11:30	パーティ

*費用は、一泊6,000円です。尚、食事不要の人は申し出てください。
その場合、費用を割引します。

〒611-0002 京都府宇治市木幡御蔵山 39-12

カルメル修道会聖テレジア修道院（黙想の家）

TEL 0774-32-7016

FAX 0774-32-7457

 teresiauji@mountain.ocn.ne.jp

宇治聖テレジア修道院（黙想）の 「建築基金」への献金のお願い

主の平和がいつも皆様の上にありますように

宇治の黙想の家は、1962年に建てられ、すでに54年の歳月が経っております。老朽化が進み、いろいろな点で支障をきたしております。そのため、新しく建て直す必要性が出てまいりました。会内で検討を続けてまいりましたが、財源に余裕がなく、新築計画が頓挫しております。

黙想の家は、キリスト者の霊的生活を培うために無くてはならないものです。またカルメル修道会は、霊的指導を会の固有使徒職としております。この意味でも、また日本の教会のためにも、静かに黙想する場所を、信徒の皆様のために確保してゆきたいと願っております。

建築資金の確保のため、少額でも結構ですので、皆様の御協力をいただければ幸いです。お志のある方は、以下の会本部の銀行口座か郵便貯金口座にお振込みください。その際は、誠にお手数ですが、お名前とご住所、振込み日と金額を、郵便かファックスで本部までお知らせくださるようお願い申し上げます。よろしくお願いたします。

三井住友銀行
上前津（カミマエヅ）支店
普通口座：7205805
名義：男子跣足カルメル修道会

郵貯銀行
記号：10040
口座番号：56845391
名義：男子跣足カルメル修道会

男子洗足カルメル修道会本部
〒456-0062 愛知県名古屋市熱田区大宝 4-5-17
Tel：052-571-1558 Fax：052-681-6445

《2017年 名古屋一日静修》

三位一体の聖エリザベトの祈り

—現代人へのメッセージ—

1. 日時、講師及びテーマ：以下の日、午前10時～午後4時

- 1月21日(土) 九里彰神父 「神は私の内に 私は神の内に」
3月20日(月) 古川利雅神父 「いのちの泉であるお方とともに」
5月20日(土) 須沢かおり氏 「わたしは、光へ、愛へ、命へ行きます」
7月17日(月) 松田浩一神父 「父と子と聖霊の唯一の神を信じて生きる
—三位一体のエリザベトと共に—」
9月23日(土) 片山はるひ氏 「エリザベトと共に生きる —永遠の光の も
とで—」
11月25日(土) Sr. ポーリン・フェルナンデス 「三位一体のエリザベト
による『聖書に基づくキリスト中心の生活』」

2. 場所： カトリック日比野教会 信徒会館
(地下鉄・名城線日比野駅下車 徒歩約5分)

2. 参加費：1000円

3. 持ち物：聖書、ロザリオ、筆記用具、お弁当

4. プログラム

- 10:00 導入の祈り (聖堂)
10:20 第一講話 (信徒会館)
11:30 念祷 ① 赦しの秘跡または面接
12:00 昼食 (信徒会館)
12:30 念祷 ② 赦しの秘跡または面接
13:00 第二講話
14:00 念祷
14:30 ミサ (聖堂)
15:30 茶話会 (信徒会館)
16:00 終了の祈り

5. 申し込み：下記いずれかの方法でお申し込み下さい。

FAX / 0568 - 62 - 5167

-mail / seisyuu_2015@yahoo.co.jp

ハガキ / 〒484-0076 犬山市橋爪一丁田 1-26

「名古屋一日静修」係り

跣足カルメル修道会主催、カルメル在世会協賛

金沢黙想案内

毎月第一日曜日 三馬教会 聖堂

14：30～ 講話

15：30～ ミサ（ラテン語聖歌）

土曜フレックスタイム静修

毎月第三土曜日（第二の場合あり）三馬教会 聖堂

14：00～ 講話

14：30～ ベネディクション・聖体祭儀

15：30～ サルヴェ レジナ 終了

沈黙の祈りのうちに神様と語らい、またご聖体のイエス様と
共に静かに憩いの時を過ごし、心をリフレッシュしましょう



カルメル霊性センター

〒921-8162

金沢市三馬3丁目324番地

カルメル会 三馬修道院

三上 和久神父まで

Tel 076-244-7788

聖書深読センターのご案内

- 1 東 京・・・上野毛聖テレジア修道院（黙想）のご案内をご覧ください。
- 2 宇 治・・・宇治聖テレジア修道院（黙想）のご案内をご覧ください。

通信深読について

通信深読は、現在何箇所かで行われているようです。そのうち1箇所が新たに参加可能なので、紹介します。

1 朝日カルチャーセンターの通信講座

参加者は、「個人素読」（記号、全、所感、近況報告などを書くB5用紙）を提出。講師のコメントが記入されて返送される。参加者全員の「個人素読」と「素読表」そして解説が冊子になって送られる。

費用：6ヶ月 20,360円（4、7、10、1月に納入） 継続の場合は 19,130円

講師：九里彰師（奇数月） 今泉健師（偶数月）

問い合わせ：〒163-0278 東京都新宿区西新宿 2-6-1 新宿住友ビル

私書箱 21 号 朝日カルチャーセンター通信講座課

電話 03-3344-2527（直通）

- ◎ 聖書深読に関してご質問のある方は、下記聖書深読センター事務局 Srローザ
にお問い合わせ下さい。



聖書深読センター

〒611-0002 京都府宇治市木幡御蔵山 39-12 カルメル会聖テレジア修道院（黙想）

所長：九里彰神父 事務局長：今泉健神父 連絡先：Srローザ

TEL 0774-32-7016 FAX 0774-38-2543

Eメール carmis@mbox.kyoto-inet.or.jp

諸所の企画案内



心のいほり 内観黙想センター
真命山 霊性交流センター
リーゼンフーバー神父キリスト教講座
ノートルダム・ド・ヴィ
ノートルダム教育修道女会・唐崎修道院
サダナ瞑想
慈しみ深き会

※注)

諸所の企画記事は集約・編集しています。
記載には注意を期しておりますが、
詳細は各問い合わせにご照会下さい。
よろしくお願い致します。



諸所の黙想企画ご案内

※各黙想内容・日程等、詳細については各問い合わせ先に、ご確認ください。

心のいほり 内観黙想センター

先の予定表と若干変わっていますので、開始の曜日や時間などにご注意ください。

◎参加費用は、6泊7日ですべてを含み、関西地区の会場は6万円、他地区は6万5千円です。

◎Eメール・ファックス・手紙でセンターに問い合わせてください。電話では取り次いでおりません。

申し込みは、会場予約準備がありますので、10日前迄に完了をお願いします。

◎〒572-0001 大阪府寝屋川市成田東町3-27「心のいほり・内観瞑想センター」藤原神父
FAX 072・802・5026 Eメール fujinao1944@nifty.com
<http://www.com-unity.co.jp/naikan> (ホームページ・アドレス)

◎予約の決まった後に、会場までの詳しい地図などの書類をお送りします。

(★)印の会場では、藤原神父以外の司祭も面接同行する可能性があります。

6泊7日 開始日午後2時より 終了日午後2時まで

2017年予定

T1	03/12 (日) -03/18 (土)	兵庫西宮・トラピスチヌ
K2	03/27 (日) -04/01 (土)	東京小金井・聖霊会
N1	05/07 (日) -05/13 (土)	滋賀唐崎・ノートルダム
K2	06/11 (日) -06/17 (土)	東京小金井・聖霊会
T2	07/02 (日) -07/08 (土)	兵庫西宮・トラピスチヌ
T3	09/03 (日) -09/09 (土)	兵庫西宮・トラピスチヌ
N2	10/10 (火) -10/16 (月)	滋賀唐崎・ノートルダム
K3	11/05 (日) -11/11 (土)	東京小金井・聖霊会
T4	12/03 (日) -12/09 (土)	兵庫西宮・トラピスチヌ

2018年予定

K1	05/06 (日) -05/12 (土)	滋賀唐崎・ノートルダム
K2	10/07 (日) -10/13 (土)	滋賀唐崎・ノートルダム

真命山

祈りの集い

年間のテーマ

山上の教え

2017



年度行事のご案内

祈りの集い(10時?15:00時)

- 1月12日 幸せの道・イエスの山上の垂訓 (マタイ5:7)
- 2月9日 心の貧しい人々は、幸せである、天の国はその人たちのものである。(マタイ5:3)
- 3月9日 柔和な人々は、幸せである、その人たちは地を受け継ぐ。(マタイ5:4)
- 4月20日 悲しむ人々は、幸せである、その人たちは慰められる。(マタイ5:5)
- 5月11日 義に飢え渴く人々は、幸せである、その人たちは満たされる。(マタイ5:6)
- 6月8日 憐れみ深い人々は、幸せである、その人たちは憐れみを受ける。(マタイ5:7)
- 7月13日 心の清い人々は、幸せである、その人たちは神を見る。(マタイ5:8)
- 8月 休み
- 9月14日 平和を実現する人々は、幸せである。その人たちは神の子と呼ばれる。(マタイ5:9)
- 10月12日 義のために迫害される人々は、幸せである、天の国はその人たちのものである。(マタイ5:10)
- 11月9日 幸いなのは、神の言葉を聞き、それを守る人たちである。(ルカ11:27? 28)
- 12月14日 見ないのに信ずる者は、幸いである。(ヨハネ20:29)

指導者 ロック 神父

? 個人またはグループでの黙想会
研修会も歓迎いたします(要予約)

申込先

真命山 諸宗教対話センター

865-0133 熊本県玉名郡和水町蜻蛉 1391-7

e-mail: shinmeizan@gmail.com

www.shinmeizan.com

リーゼンフーバー神父講座・集いの案内 2017年～2018年

●キリスト教入門講座

金曜日 18時45分～20時30分
聖イグナチオ教会信徒会館3階アルペホール。
どなたでも。聖書に基づきキリスト教の基本テーマを取り扱います。

●キリスト教理解講座

毎月第1・第3・第5火曜日 18時45分～20時30分
聖イグナチオ教会信徒会館3階アルペホール
キリスト教の基礎知識を持っている方。信仰理解と信仰生活の深まりを目的とし、キリスト教の中心的テーマを探求します。2年間のコース。

●土曜アカデミー 下記(予定)の土曜日:

9時30分～12時00分、岐部ホール4階404、
各時代の文章を読んで、思想史一般とキリスト教哲学・神学の相互関係を考察します。
キリスト教思想史に関心を持っている方。プログラムの詳細は、別途配布。

2017年度:理性と神認識—古代と中世において
夏学期:4/22、5/6、5/27、6/3、6/10、6/17
6/24、7/1、7/8、9/2、9/9、9/16

●神学読書会

第2・第4木曜日:18時-20時
上智大学内S.J.ハウス、第5応接室。
『リーゼンフーバー小著作集』から霊性と神学に関する文章を読んで、話し合います。4月27日から。但し祝日、8月全体は休み。

・ミサ:上記読書会後20時-20時45分 クルトウルハイム1F右聖テレジア小聖堂どなたでも。

●黙想

・「会社婦りの黙想」毎月第2・第4火曜日 18時45分-20時 聖イグナチオ教会マリア中聖堂
4月25日から。但し祝日、8月全体は休み。
・「通う霊草」8月26日(土)-9月3日(日)18時-20時45分 上智大学内クルトゥルハイム聖堂

・「黙想会」

5月20日(土)10時-21日(日)14時(上石神井)、11月11日(土)-12日(日)(上石神井)、2018年3月17日(土)-18日(日)(上石神井)、1泊2日。申込の締切りは、初日の10日前。
[関西] 9月30日(土)13時30分-10月1日(日)15時(宝塚黙想の家)。Tel.0797-84-7863 (Sr.田中)。

●祈りの集い

・下記の土曜日 13時30分-16時 上智大学内S.J.ハウス、第5応接室。講話、黙想、ミサがあります。
2017年
5月27日、7月22日、9月16日、10月14日、11月25日、
2018年
1月20日、2月17日

・ロザリオの祈り(上記同日のミサに続いて)16時10分-16時50分

●坐禅会

・第1、第3月曜日:18時00分-20時00分
上智大学内クルトゥルハイム1階左の部屋。2回坐り、間に講話。(5月15日から。但し祝日、8月全体、12月25日は休み)

●坐禅接心

8月12日(土) 20時20分-16日(水) 8時30分
11月1日(水) 20時20分-5日(日) 8時30分
秋川神冥窟。1泊 2,400円(+暖房費)程度。
事前申込み要。
[関西]

7月30日(日)17時45分-8月5日(土)15時。
宝塚黙想の家。事前の申込み要。
Tel.0797-84-7863. (Sr.田中)

●アガベ会

下記の日に説明会(13時30分)と集い・ミサ(14時-18時)。上智大学内S.J.ハウス、第5応接室。
4月22日(土)、6月24日(土)、10月21日(土)
2018年1月27日(土)

リーゼンフーバー神父キリスト教入門・理解講座

キリスト教入門講座 2017-18年

日時 毎週金曜日

18時45分～20時30分

- 4/16 ◆復活祭のミサ(14時、上智大学内クルトゥルハイム2階聖堂、定員80人)
- 4/21 聖書の人間像—人間の現状と使命
- 4/28 旧約聖書の神体験—聞くことと見ること
- 5/12 理性と神認識の道—世界内存在を通して
- 5/19 創造された世界—人間存在の根拠と自然の意味
- 5/20-21 ●黙想会(上石神井)
- 5/26 歴史と信仰—神との出会い
- 6/02 内なる神—その「似姿」としての人間
- 6/09 新約聖書の神理解—主なる父
- 6/16 祈りによる神理解—神の偉大さと近さ
- 6/23 救い主の役割—人類の待望
- 6/30 神の国—イエスの告げるメッセージ
- 7/07 イエスの生き方—神に遣わされて人に仕える
- 7/14 イエスのたとえ話—神の働きを語る
- 7/21 イエスの人間関係—罪人と弟子と共に
- 7/28 イエスは誰か—イエスの自己理解
- 7/29 ◆感謝のミサ(15時、上智大学内クルトゥルハイム2階聖堂、定員80人)
- 8/04,11,18,25 ○休み
- 8/26-9/03 ●通う霊操(18時-20時45分)
(上智大学内クルトゥルハイム2階聖堂)
- 9/01 イエスの死—その救済的意義
(上智大学内クルトゥルハイム2階聖堂)
- 9/08 聖書のイエス像—ヨハネとパウロの見たイエス
- 9/15 イエスの復活—今に生きるイエス
- 9/22 聖霊—神の愛に導かれる
- 9/29 祈りの本質とさまざまな祈り方—神と関わる

キリスト教理解講座 2017-18年

日時 第1・3・5火曜日

18時45分～20時30分

- 4/16 ◆復活祭のミサ(14時、上智大学内クルトゥルハイム2階聖堂、定員80人)
- [人生の基礎づけ]
- 4/18 人間の尊厳—自律と自己超越
- 5/2 人生の目標—神の「似姿」としての真なる人間
- 5/16 人間以外のものの意義—世界の使用と聖化
- 5/20-21 ●黙想会(上石神井)
- 6/6 創造・歴史・救い—イエスという中心
- [倫理的行為]
- 6/20 行為の規範—人間らしさと神の呼びかけ
- 7/4 自己実現—責任と自由
- 7/18 性格の形成—自己受容と善への憧れ
- 7/29 ◆感謝のミサ(15時、上智大学内クルトゥルハイム2階聖堂、定員80人)
- 8/1,15 ○休み
- 8/26-9/03 ●通う霊操(18時-20時45分)
(上智大学内クルトゥルハイム2階聖堂)
- 9/5 人間の弱さ—罪とゆるし
- 9/19 有意義に生きる基盤—信仰と希望

《場所・お問い合わせ》

聖イグナチオ教会(四ツ谷駅前)

信徒会館3階

アルペホール TEL 03・3263・4584

クラウス・リーゼンフーバー神父

〒102-8571 千代田区紀尾井町7-1

上智大学SJハウス

電話 03-3238-5124(直通) -5111(伝言)

Fax 03-3238-5056

講話と祈りの集い

四ツ谷 Week End Emao

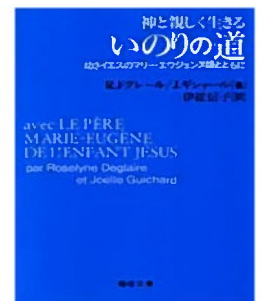
上智大学 2号館1階 カトリックセンター
4月22日（土）午後2時～午後5時30分
担当 片山はるひ
講話・祈り・質問・分かち合い
参加費無料



上石神井

5月27日（土）午後2時～午後5時30分
担当：片山はるひ
講話・祈り・質問・分かち合い
参加費 200円

毎回、テキスト『神と親しく生きるいのりの道
幼きイエスのマリー・エウジェヌ師とともに』
（聖母文庫 本体500円＋税）を用いて、
講話をすすめています



お申し込み・問い合わせ
ノートルダム・ド・ヴィ

『片山はるひ宛』でお願いします。

〒177-0044 練馬区上石神井4-32-35
TEL(03)3594-2247 FAX(03)3594-2254
e-mail notredamedevie.japan@gmail.com

サダナ瞑想 ～東洋の瞑想とキリスト者の祈り～

詳細、補充情報はホームページをご覧ください。 <http://sadhana.jesuits.or.jp/>

★申込み受付・・・開始日の8日前で締切ります

コース	日時	指導者	開催場所	申込み
那須リピーターの会	4/28(金)17:30- 30(日)14:00	Fr植栗	ベタニア修道女会 聖ヨゼフ山の家	来間(くるま)裕美子※ Tel090-5325-2518 045-577-0740
入門B	5/14(日) 9:30-17:00	Fr植栗	ニコラバレ修道院1F (四ツ谷)	同上
自己を知る *1泊2日 ×2=合計 4日	5/20(土)9:30- 21(日)17:00 5/27(土)9:30- 28(日)17:00	Fr植栗	エスコラピアス修道女 会修道院 (世田谷区弦巻)	同上
沖縄 サダナ I	6/1((木)17:30- 4(日)16:00	Fr植栗	沖縄・聖クララ修道院 Tel:098-945-8649 Fax:098-945-8720 Sr.名嘉山	
沖縄 フォローアップ	6/5(月) 9:30-17:00	Fr植栗	同上	
フォローアップ	6/11(日) 9:30-17:00	Fr植栗	ニコラバレ修道院1F (四ツ谷)	来間(くるま)裕美子※ Tel090-5325-2518 045-577-0740
サダナ I	6/15(木) 17:30- 18(日)16:00	Fr植栗	上石神井無原罪聖母 修道院 (練馬区上石神井)	同上
入門C	6/25(日) 9:30-17:00	Fr植栗	ニコラバレ修道院1F (四ツ谷)	同上

※不在の場合は、渡辺由子 Tel & Fax : 042-325-7554

◆サダナ I (入門A. B. C)

体の営みと想像とを生かして祈りを深め、「神との出会い」と「心の解放」をめざす。

◆サダナ II

Iをいっそう深める。身体・感・想像・自分史が、神との交わりのもと統合される。

◆フォローアップ・・・サダナ Iを終えた方。

◆入門C・・・入門Aまたは入門Bを終えた方。



ノートルダム教育修道女会・唐崎修道院

◎ 所在地： 〒520-0106 滋賀県 大津市 唐崎 1丁目 3-1
Tel： 077-579-7580
Fax： 077-579-3804
E-メール： karainorind92@mbe.nifty.com

◎ 交通： JR 京都駅から湖西線で三つ目「唐崎」下車。
琵琶湖の方へ徒歩 約 13 分

◎ 日程：

A. 8日間の個人指導による黙想

初日は、18時の夕食で始まり、最終日は昼食で終わります。

- ① 2017年 5月 6日(土)～ 5月14日(日)
- ② 8月14日(月)～ 8月22日(火)
- ③ 10月 9日(月)～ 10月17日(火)
- ④ 12月27日(水)～ 2018年1月 4日(木)

B. 祈りの体験：週末3日間（金曜日の夕食～日曜日の昼食）

【神との親しさの中で日常を生きるために】

- ① 2017年 2月 3日(金)～ 2月5日(日)
- ② 2月24日(金)～ 2月26日(日)
- ③ 3月17日(金)～ 3月19日(日)
- ④ 6月16日(金)～ 6月18日(日)
- ⑤ 7月14日(金)～ 7月16日(日)
- ⑥ 9月15日(金)～ 9月17日(日)
- ⑦ 11月17日(金)～11月19日(日)

C. 講話 黙想（奉献生活者のため）

2017年 5月30日(火)～6月7日(水) 阿部 仲麻呂 師（サゾウ会）

◎ 対象： 信徒、修道者、司祭、洗礼を受けていない方、どなたでも参加できます。

◎ 霊的同伴者： 司祭、ノートルダム教育修道女会会員、その他

◎ 申込み： 1) 氏名(フリガナ) 2) 住所 3) 電話番号 4) 希望日程(番号) を書いて
郵送、または、Faxで「黙想係」Sr.松本佳子へ申し込んでください。
唐崎修道院への案内地図の必要な方は、その旨を書き添えて下さい。

いずれの場合も、10日前までに申し込んでください。 先着順 11名です。

◎ その他： 司祭同伴の黙想会やグループ研修会のために修道院をご利用なさりたい方はご相談ください。（但し、上記の日程と8月1日～8月9日を除きます。）

希望への道

2017年度 女子青年黙想会

	日時	テーマ	講師
1	4月22日(土)～23日(日)	なぜそのようなことがあり得ましょうか。	山内十束師(ご受難会)
2	6月10日(土)～11日(日)	おことばのとおり、この身になりますように。	山内十束師(ご受難会)
3	11月11日(土)～12日(日)	神は卑しいはしためを顧みられた。	山内十束師(ご受難会)
4	2月17日(土)～18日(日)	心に納めて、思い巡らす。	山内十束師(ご受難会)

場所： ノートルダム教育修道女会 唐崎修道院

〒520-0106 滋賀県大津市唐崎 1-3-1

対象： 独身女性青年信徒

費用： 2,500円 (一日参加も可)

申込み・問合せ： ノートルダム教育修道女会 唐崎修道院 シスター桂川

Tel : 077-579-2884 Fax : 077-579-3804

email: karainorind92@mbe.nifty.com

希望への道

—なぜそのようなことがあり得ましょうか—

2017年度 第1回 女子青年黙想会

日時： 4月22日(土) 15:00～

23日(日) 15:30まで

場所： ノートルダム唐崎修道院 (JR京都駅から30分)

指導： 山内 十束 師 (ご受難会)

対象： 独身青年女性信徒

費用： 2,500円

締切： 2017年4月17日(日)まで

〈申込み・問合せ〉

〒520-0106 滋賀県大津市唐崎 1-3-1

ノートルダム教育修道女会 Sr. 桂川

Tel : 077-579-2884 Fax : 077-579-3804

email: karainorind92@mbe.nifty.com

祈り：講話と実践

沈黙の内に神を求めて
— 観想の祈りへの道 —

場所：イグナチオ教会岐部ホール404号室 14:00～16:00
12月のみマリア聖堂（ミサあり）

【2016年予定】

—12月15日(木)『霊の賛歌』第5回目：第3の歌— 終了

【2017年予定】

—1月19日(木)『霊の賛歌』第6回目：第4～5の歌— 終了

—3月16日(木)『霊の賛歌』第7回目：第6の歌— 終了

5月25日(木)『霊の賛歌』第8回目：第7の歌

7月20日(木)『霊の賛歌』第9回目：第8の歌

9月21日(木)『霊の賛歌』第10回目：第9の歌

11月16日(木)『霊の賛歌』第11回目：第10の歌

12月21日(木)『霊の賛歌』第12回目：第11の歌

* 参加費無料（献金歓迎）

* 問い合わせ先：042-473-6287 篠原

九里彰神父（カルメル会司祭）



<<特別黙想会>>

日時：2016年12月17日(土) 4時半受付～18日(日) 午後4時

場所：上野毛聖テレジア修道院（黙想）

テーマ：「神のいつくしみに気づく」

指導司祭：九里彰神父

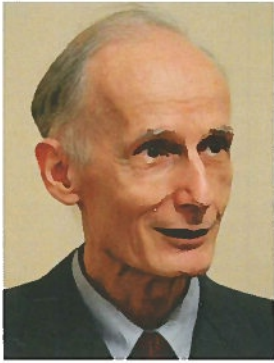
申し込み：上野毛聖テレジア修道院（黙想）

〒158-0093 東京都世田谷区上野毛2-14-25

Tel: 03-5706-7355 / Fax: 03-3704-1789

E-mail: mokusou@carmel-monastery.jp

※各黙想会内容・日程等、詳細については各問い合わせ先に、ご確認ください。



クラウス・リーゼンフーバー小著作集

(全五巻) 四六版・434頁～628頁

各巻 本体 3,800～5,000 円+税

著者は日本における中世哲学研究を牽引し、広汎にわたるキリスト教思想史の著述や編集・出版を手がけてきた。宗教家としても、キリスト教信者のみならず信仰に初めて出会う一般社会人と広く向き合い、講座や黙想会などを開いてキリスト教の精神と実践、信仰における超越との関わりを伝えている。人間の自己理解から出発し、聖書と哲学的な理解とを構築して、キリスト教信仰と霊性を現代人にとって生き生きとした形で展開している。講義、執筆活動をとおして西洋古代・中世さらに現代哲学思想をわかりやすく説く。この著作集は40余年の著述活動による150余の小論考からなっており、霊的な信仰理解と人間の経験とを結びつけて互いに支え合うものとして示そうとするものである。

人生の意義の解明と存在への問い。人生をめぐる哲学的・思想史的・人間論的な諸観点のもとで、聖書に基づいて第一根源である神を中心に展開する。

		ISBN
第1巻	I 超越体験 一宗教論	定価(本体+税)
	宗教の人間論的基礎付けを「意義への問い」という観点から考察した宗教哲学論文集。宗教的理解と経験がキリスト教的精神に基づいて絡み合い、人間の心を考察して全体の根源的な起源へ向ける。全11作、434p	9784862852151 3,800 円+税
第2巻	II 真理と神秘 一聖書の黙想	
	日常生活を貫いて人間とかかわる絶対的神秘を、聖書を紐解きつつ多面的な観点から浮き彫りにする。超越との関係を求める人に向けて、宗教的経験を解明する。全35作、544p	978-4862852175 4,600 円+税
第3巻	III 信仰と幸い 一キリスト教の本質	
	主の祈り、信条の命題に沿って信仰の全体像を解説。「山上の説教」とおして人生における艱難辛苦にも焦点を合わせる。十字を切ることの意味など、聖霊の神学と霊性から信仰生活の深みを照らす。全38作、628p	9784862852205 5,000 円+税
第4巻	IV 思惟の歴史 一哲学・神学的小論	
	古代から中世のキリスト教思想史の考察の上に立脚し、現代における信仰をめぐる根本的な問いを洞察する。人間と神理解の可能性を新たに拓けて信仰生活の深みに掘下げる。全41作、448p	9784862852212 4,000 円+税
第5巻	V 自己の解明 一根源への問いと坐禅による実践	
	信仰との関わりの薄い現代人に向け、自己への問いから発した人生の意義と超越への方向付けを見出す実践的な道筋を示唆する。「今」を中心とする存在論・時間論を展開した最終講義「時間です!」収録。全35作、470p	9784862852229 4,200 円+税

●リーゼンフーバー, クラウス [Riesenhuber, Klaus]

1938年ドイツ生まれ。1958年イエズス会入会。1967年ミュンヘン大学哲学博士。同年来日。1969年上智大学文学部哲学科専任講師。1971年東京で司祭叙階。1974年上智大学中世思想研究所所長(-2004)。1981年上智大学教授。1989年上智大学神学博士。国公立大学で客員・非常勤講師。放送大学客員教授。2009年上智大学名誉教授。現在は哲学の人間論および宗教哲学などの講座を開講。

知泉書館

〒113-0033 東京都文京区本郷 1-13-2 TEL: 03-3814-6161 FAX: 03-3814-6166

http://www.chisen.co.jp

《一日静修へのおさそい》

テーマ 「殉教の精神～高山右近と映画『沈黙』をもとに考える」

指導 山下 敦 師 (大分教区司祭)

日 時: 5月27日(土)10:00～16:00 受付 9:30～

場 所: コングレガシオン・ド・ノートルダム調布修道院

〒182-0034 調布市下石原 3-55-1

対 象: 男女年齢を問わずどなたでも参加可 先着70名

会 費: 1,000円(昼食・飲物持参)

申 込: 住所、氏名、電話番号を記入の上、FAX かメールで
同調布修道院 FAX/ 042-482-2163

E-mail/ cndmokuso@yahoo.co.jp

*当日の受付はいたしません

問合せ: 同調布修道院 Tel/ 042-482-2012

受付時間 平日9:00～17:00

主 催: コングレガシオン・ド・ノートルダム アソシエート

※京王線調布駅下車。中央口から徒歩20分。タクシー5分。

マルガリタ幼稚園と同じ敷地内です。



カルメル会出版物のご案内



「神のさすらい人」
アビラの聖テレサ
マルセル・オクレール著
福岡カルメル会訳



「創立史」
イエズスの聖テレジア著



「靈魂の城」
イエズスの聖テレジア著



「カルメル山登攀」
十字架の聖ヨハネ著
奥村一郎 訳

●お問合せは下記まで

〒158-0093 東京都世田谷区上野毛2-14-25
カルメル会上野毛聖テレジア修道院（黙想の家）

TEL 03-5706-7355 FAX 03-3704-1789

E-mail : mokusou@carmel-monastery.jp

霊性センターニュース

* 年間購読(郵送)のご案内 *

ご郵送は、基本的に申し込み翌月から12月までとなります。
例：6月申込の場合は、7月号～12月号（但し8月号休刊を除きます）
この場合の献金については、ご希望の月数×250円程度となります。

申込先：下記の霊性センターニュース事務局へ、
氏名、郵便番号・住所、電話、Fax等をご記入の上、
郵送か下記のe-mailでお申し込みください。

《郵送でのお申し込み》

〒158-0093 東京都世田谷区上野毛2-14-25
カルメル会上野毛修道院 「霊性センター事務局」

《e-mailでのお申し込み》

tokyo@carmel-monastery.jp

献金振込先：霊性センターニュースの最終ページをご参照下さい。

*何かご質問等があれば、下記にご連絡ください。

Tel: 03-3704-2171 Fax: 03-3704-1789

男子跣足カルメル修道会のホームページ

<http://www.carmel-monastery.jp>

Google: 「カルメル会」で検索できます



男子跣足カルメル修道会
Order of Discalced Carmelites

霊性センターニュース掲載の情報も載っています

『霊性センターニュース』お持ち帰りの方へ

一冊 100 円程度の献金をお願い致します！

「霊性センターへの献金」のお願い（上とは別）

「霊性センターニュース」は、現在、上野毛霊性センターで編集、印刷、製本、発送等を行っておりますが、経費はすべてカルメル会で負担しております。読者の皆様のご理解とご協力をいただければ、幸いです。

献金される方は、下記の口座へお振り込みください。

郵便番号口座： 00110-4-297250

加入者名： カルメル霊性センターニュース

なお通信欄へは「献金」とご記入ください。



編集後記

先日、面白い映像を見た。フランシスコ教皇がサン・ピエトロ広場で子供たちを祝福していたところ、三歳の女の子が、教皇様が彼女にキスした瞬間、右の手を伸ばし、教皇様の小さな帽子、カロッタ（skullcap）を取ってしまったのだ。

たしかに教皇様や司教様のカロッタを見ていると、どうして落ちないのだろうと不思議に思わない人はいないだろう。だが、頭に手を伸ばして取る人はいない。畏れ多いと、皆、黙って見ているだけである。

これに対し、小さな子供にとっては、教皇様もへったくれもない。落ちないカロッタを見て不思議に思い、思わず手を伸ばしたのである。教皇様だろうがヤクザの親分だろうが、偉い学者であろうがサラ金業者だろうが、まったく関係がない。どこか、「善人にも悪人にも太陽を昇らせ、正しい人にも正しくない人にも雨を降らせる」神さまに似ている。

(P.九里)



製本／発送のご協力お願い

「霊性センターニュース」の製本／発送は、基本的に毎月最終週の火曜日に行われます。作業はホッチキス綴じと購入者様への発送のみです。皆様のご協力をお待ちしております。初めての方、不定期参加の方も、大歓迎です。お茶とお菓子の時間もありますよ♪

「5月号」製本日

4月25日(火) 上野毛教会信徒会館ホール 1階
午後1時半頃から～

※参加ご希望の方は、念のため、製本日をご確認下さい。霊性センター係

TEL 03・3704・2171